

低レベル放射性廃棄物(ドラム缶)の塗装の剥がれ等について(続報)
(2019年4月に返送したドラム缶の原因調査結果)

2019年8月7日

2019年4月に日本原燃株式会社(以下、「日本原燃(株)」という。)低レベル放射性廃棄物埋設センター(以下、「埋設センター」という。)から浜岡原子力発電所へ返送した低レベル放射性廃棄物(ドラム缶)2本に確認された水滴の付着および塗装の膨らみについて、原因調査の結果を取りまとめたためお知らせします。

〈調査結果〉

【①水滴の付着が確認されたドラム缶】

調査の結果、廃棄物の収納時等にできたドラム缶底部内面の傷および廃棄物の収納後に充填するモルタルとドラム缶底部内面に生じた隙間に溜まった水分等が原因となり、ドラム缶底部内面の傷を起点に腐食が発生・進展し、ドラム缶底部外面に水滴が発生したものと推定しました。

今回推定した原因は、2018年4月に塗装の剥がれ等が確認されたドラム缶と同じ原因であったことから、同一の対策(廃棄物の収納手順の見直しおよびモルタル充填後のドラム缶への振動付与)を実施することにより再発防止を図ってまいります。(2018年4月に塗装の剥がれ等が確認されたドラム缶の原因と対策([2019年2月15日お知らせ済み](#)))

【②塗装の膨らみが確認されたドラム缶】

調査の結果、ドラム缶製造メーカーの製造過程において、ドラム缶外表面の乾燥工程中に塗装面に付着した空気中の微細な鉄粉が、時間経過に伴って錆びて膨れたことで、ドラム缶外表面の塗装が膨らんだものであると推定しました。このため、ドラム缶自体の健全性は確保されていることを確認しております。

〈これまでの経緯〉

2018年4月、浜岡原子力発電所から埋設センターへ2018年3月に輸送したドラム缶960本のうち、2本のドラム缶底部外面に塗装の剥がれ等が確認されました。このため、当該ドラム缶2本を返送し、残りの958本を埋設センターで一時貯蔵しておりました。また、同年5月に浜岡原子力発電所から搬出予定であったドラム缶928本のうち、1本のドラム缶底部外面にも類似の状態が確認されました。これらのドラム缶3本に関する塗装の剥がれ等への原因と対策については2019年2月15日にお知らせしています。

その後、埋設センターで一時貯蔵していたドラム缶958本について、貯蔵期間が1年を超える見込みとなったことから、本年2月25日から3月12日にかけて、日本原燃(株)が自主的に外観確認を実施した結果、新たに2本のドラム缶で塗装の膨らみ等が確認されたことから、2019年4月に浜岡原子力発電所に返送し、調査を実施してまいりました。

〈これまでの公表〉

■輸送した低レベル放射性廃棄物の調査の開始について ([2018年4月25日お知らせ済み](#))

- 浜岡原子力発電所の 2018 年度新燃料等の輸送予定の変更について
([2018 年 4 月 27 日お知らせ済み](#))
- 浜岡原子力発電所の 2018 年度新燃料等の輸送予定の変更について(2 回目)
([2018 年 6 月 7 日お知らせ済み](#))
- 低レベル放射性廃棄物の輸送(返送)について
([2018 年 6 月 18 日お知らせ済み](#))

- 低レベル放射性廃棄物(ドラム缶)の塗装の剥がれ等について(続報)(原因と対策)
([2019 年 2 月 15 日お知らせ済み](#))
- 低レベル放射性廃棄物(ドラム缶)の塗装の剥がれ等について(続報)(低レベル放射性廃棄物埋設センターにおけるドラム缶の外観確認結果)
([2019 年 3 月 13 日お知らせ済み](#))

- 浜岡原子力発電所の 2019 年度新燃料等の輸送予定について
([2019 年 3 月 29 日お知らせ済み](#))
- 低レベル放射性廃棄物の輸送日の変更について
([2019 年 4 月 12 日お知らせ済み](#))

以 上